

信仰と芸能



目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 平尾哲男
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

第一章 年中行事

豊かな生活を求める年中行事

第一節 正月

一 正月の準備

正月の準備はススハライから 松飾りは年神様を迎える場所 二十九日を避けて餅つき

神聖な場所を示す注連飾り 前垂れにつける飾り 便所・井戸にも飾ったお注連

二 大晦日と年取り

年神様を祀る年棚づくり 年神様は五穀豊穡の神様 主婦はお節料理作りに大忙し

幸村も食べた鮭 家族揃って年取り 除夜の過ごし方

三 大正月

若水汲みと四方拝	正月の食事は餅とお節料理	正月三が日の食事と習慣	年始回りと初詣で
お正月はいつまで	多彩な正月行事		
四 六日年取りと七草	六日年取りはカニ年取り	七日正月と七草粥	16
五 小正月	マツメドシとマルメドシ	物づくり(まゆ玉)	18
二十日正月	鬼は外福は内(豆まき)	節分に残る大晦日の行事	22
六 節分	節分に残る大晦日の行事	節分のいろいろ	25
第二節 春から夏へ			25
一 道祖神	道祖神と馬引き行事	子供たちが取り仕切った道祖神	25
	道祖神の後片付け	お稲荷さまの祭り	
二 ひな祭り	節供と節句	ひな祭りは女の子の節句	28
	古くなった雛の始末	雛の語源とひな祭りの起源	
		雛人形は家具屋が売った	
三 端午の節句	鯉のぼりが泳ぐ端午の節句	菖蒲を使う昔からの風習	31
		端午の節句の供物は粽・柏餅	
四 七夕	軒端に揺れる七夕飾り	河原に小屋を造り泊まった	34
	七夕にまつわる伝承	七夕送り	
		「天の川」とタイマツ火	

第三節 お盆	39
--------	----

一 お盆の準備	39
---------	----

地獄の戸が開くイシノト お盆の用品を揃えた花市

二 盆行事	40
-------	----

養蚕の用具を使った盆棚 賑やかに飾る盆棚のお供え物 迎え盆と迎え火

盆の食べ物天ぶら・オヤキ 送り盆と送り火

三 新盆	44
------	----

新盆の盆棚飾り 今年はお淋しいお盆さんです

第四節 秋から冬へ	46
-----------	----

一 十日夜・カカシアゲ	46
-------------	----

カカシアゲ トオカンヤ（十日夜） お月さんを祀る

二 恵比須講	47
--------	----

恵比須信仰 恵比須講と商店街のようす 恵比須講にはさんまを食べる

第二章 民間信仰

地域に支えられた信仰

第一節 祭り	53
--------	----

一 集落で祀る神	54
----------	----

(1) 祭日	56
--------	----

春祭り	秋祭り	祈年祭	新嘗祭	祇園祭	大祓
(2) 供え物	61				
(3) 出役	62				
(4) 祭りの仕方	63				
下郷	大星神社	半過	築地	科野大宮社	野竹
上室賀	小牧	鎌原	下組	別所温泉院内	前山
同族のまつり	68				吉田神社
祀る神と供え物	山浦氏	石井氏	西沢氏	中村氏	仁古田
三 屋敷に祀る神	70				
下郷の田中氏	常田の三戸部氏	上本郷の綱島氏	森の久保田氏	東前山の竹内氏	
下組の松崎氏	下組の綱島氏	野竹の内藤氏			
四 神棚に祀る神	72				
祀る神々	御札の配置				
五 かまどや火に関する神	74				
三峯神社	秋葉神社	荒神宮	愛宕神社	恵比須・大黒天	
六 戸口・門口守りの神	75				
魔除けのカニの札					
第二節 お寺やお堂	77				
一 お寺と檀家	77				
寺と檀家					
二 寺院の行事	78				
施餓鬼	灌仏会（花祭り）	お十夜と八十八夜	大般若経会	報恩講と吞龍様	

三	お堂など	80
	八日堂 大黒天 猫大明神 森のお堂 林之郷の十王様 延命地藏 岩門・諏訪部の大日如来堂 観音堂 馬頭観音 薬師如来 昆沙門堂 阿弥陀堂 地藏尊堂 不動明王(不動尊) 虚空蔵堂 火定の跡 鬼子母神 釈迦堂	
第三節	生業の神	88
一	山の神	88
	大山祇神 山の神の祭日 山の神の祭りは仕事を休む	
二	実りへの祈り	90
	実りの神(祭神) 戸隠講 豊作への祈り 節日の農事休み 実りの秋に感謝	
三	職業による祭り	93
	大工さんの祀る神 鍛冶屋さんが祀る神	
第四節	道祖神と天神講	94
一	道祖神	94
	道祖神祭りの呼び方 道祖神とは 道祖神の祭日 各地区での道祖神祭り	
二	ワラウマヒキ	97
	各地区でのワラウマヒキ ワラウマヒキのお餅	
三	古老が語る昔の道祖神祭り(昭和三十四年ごろ)	99
四	天神講	101
	各地の天神講	

第五節 講

一 代参を行う講中	104
(1) 戸隠講	104
講への参加範囲	
費用の出し方	
代参の時期	
各地区の戸隠講	
(2) 三峯講	106
各地区での三峯講	
(3) 大山石尊講	108
各地区の大山石尊講	
(4) 伊勢講	109
各地区での伊勢講	
(5) その他の講での代参	111
古峯講	
御嶽講	
米子不動講	
その他の講	
地元の荒神講	
二 日待ち講	112
(1) 庚申講	112
(2) 甲子講	113
三 月待ち講	113
二十三夜講	
十五夜講と十九夜講	
四 念仏講	115
五 その他の講	116
蘇民講	

第六節 共同祈願	118
----------	-----

一 雨乞い	118
-------	-----

火を焚いて祈る 神仏を川へ 岳の幟

二 風祭り	121
-------	-----

鎌で風を切る 幟旗を立てたり大火を焚く

三 虫送り	122
-------	-----

鳥追い祭り

四 疫病・悪魔払い	123
-----------	-----

悪魔払い 占いや呪い

第三章 民俗芸能

祈りや喜びを表す暮らしの芸能

第一節 獅子舞	127
---------	-----

二つの系統の獅子舞

一 太神楽獅子	128
---------	-----

舞われる時期と場所 祭りの組織と神楽屋台 演目の構成とその内容

獅子と道化が戯れる面神楽 芝居から取り込んだ人気の演目 太神楽囃子と獅子唄 定着への伝承

二 三頭獅子	138
--------	-----

上演の機会と場所 所役の構成と地区の特色 獅子あやしとその採物 獅子の腰太鼓と摺り簾

演舞の形と歌詞の内容 三頭獅子の由来と伝承

第二節 里神楽と練り物 143

上田で唯一の里神楽 見せる祭りへの変貌と練り物

一 太郎山神社の太々神楽 144

上演の場所と時期 鶏面の扮装と芸態 猿田彦の扮装と芸態 翁舞の扮装と芸態

太郎山太々神楽の沿革

二 祇園祭の出し物 147

神輿が中心の市街地の祇園祭 お山の天王とお舟の天王 ご祭礼屏風に豪華な山車 保野の祇園祭

三 御柱の曳き練り 150

生島足島神社の御柱祭 国分堀川神社の御柱祭 サーサ皆さん力入れて

四 大日堂二十五菩薩来迎会 152

間隔の長い開帳のたびに すべて借りもので演出

五 祭りの山車・屋台 154

前山の甲子祭山車と囃子 大日本底抜屋台と囃子 格納されたままの鈴子の山車

山車に巻かれた大龍丸の幕 上塩尻の山車と底抜屋台 木町の大獅子

第三節 地芝居と娯楽 156

見るものから演じるものへ 暮らしの中の娯楽の華

一 地芝居と演芸 157

農村舞台の集中した地域 神事奉納で禁令をのがれた知恵 舞台と客席が一体となって

好まれた地芝居の出し物 買芝居と劇場 壮士芝居から青年の活動へ

二 訪れた旅芸人 163

お正月に来た旅芸人 時期を限らない旅芸人 器用な物売りの芸人たち

三 盆踊り	166
輪踊りが中心	
踊りに歌われる民謡	
娯楽の輪を拡げて	
四 念仏唱和と大数珠まわし	169
鎮魂の効果と心の交流	
大数珠を繰り百万遍念仏	
融通念仏の合唱など	
第四節 競技	173
一 相撲	173
祭礼に行われた草相撲	
草相撲のしきたり	
大人から子供へ奉納相撲の変化	
二 力石など	176
一人前を示す力比べ	
草競馬や射的など	
第五節 子供の遊びとわらべ唄	178
子供の遊びとその変化	
一 口遊び	179
手遊びから肩車へ	
ケブケブあっち行け	
二 軒遊び	180
道具を使った女の子の遊び	
ホンコで競った男子のパッチン	
炬燵中心の正月遊び	
三 外遊び	183
技能を競う男子の遊び	
竹を材料にした遊具	
丸けんけんとなわとび	
野山や川で自然と遊ぶ	
雪と氷上の遊び	
四 辻遊び	187
群れで遊ぶ鬼ごっこ	
二手に分かれて行う遊び	
演技が伴う女子の遊び	

目 次

執筆分担

表紙絵・挿絵

資料提供協力者

あとがき

参考文献

上田市誌の編さん組織

表紙絵 常田と房山獅子

向かって右が房山獅子、左が常田獅子

背景に常田の大団扇（鶴面）を配する

裏表紙絵 御柱里曳き（下之郷 生島足島神社）

昭和五十四年

上田市誌 民俗編(3)

信仰と芸能

発行 平成十四年三月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三―四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇